



ゲストハウス「酒宿山田屋」の宿泊は一日1組限定。キッチンと海が見える風呂付き。素泊まり（平日2人以上利用で1人4千円）のみで、食事は出前OK。ペア宿泊券を1組にプレゼントします。年末年始と大型連休、夏休み期間を除き、週末も可。事前予約（☎046-881-3341）を。件名「訪ねる・三崎港」で名前、住所、電話番号、記事の感想を記入してメール（yukan-toukou@asahi.co m）でご応募ください。22日（水）必着。当選者にのみ、連絡いたします。

Tokyo Evening

2017年(平成29年)

11月16日
木曜日 夕刊

朝日新聞東京本社
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話 03-3545-0131 www.asahi.com



昭和の繁栄を忘れたように静かだった町に最近、動きがある。まぐろぎっぷで来た人が再訪したくなる町へー。その象徴が三崎港バス停向かいの山田屋酒店。カメラに向ける人も多い明治期の建物は2年前、ゲストハウス「酒宿山田屋」に生まれ変わった。

仕掛けたのは不動産業を営む倉橋隆行さん（59）。「マグロ以外にも魚種豊富で、東京から近い。三崎の可能性は高い」と横浜から移り住んだ。山田直春さん（81）が経営難で酒屋をたたむと聞き、「惜し

い」とそつくり賣い取った。1階の酒屋は引き続き山田さんに託し、2階を宿泊用に改装。釣った魚をすぐ調理できることで、宣伝もしないのに稼働率は4割という。

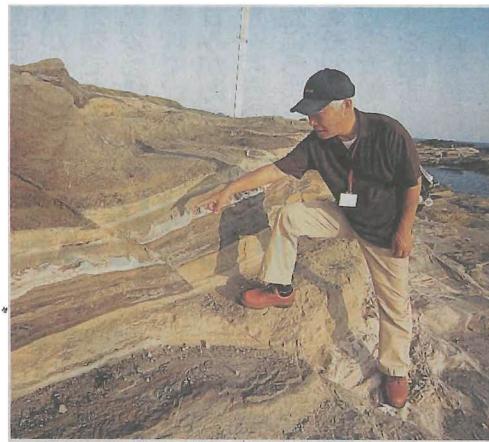
近くで、手作り装飾品などを店「クラフトうみべ」を小川由夏さん（45）が友人と始めたのも2年前。隣の横須賀出身で「古い蔵でお店ができる」と飛びつきました。よそから來た人が持ち込む活気で、屋間は店のシャッターを開ける地元の人も増えた。

そんな三崎周辺は、昭和どころか、1200万～400万年前の地球のうごめきの気配も伝える。中でも渡船で5分の城ヶ島は「日本の地質百

上げだった。毎日どこかで出港前の宴会があり、夜の町もにぎやかでした」



山田屋酒店。山田直春さん（右）は1階で店番。倉橋隆行さん（中）が若いスタッフと2階のゲストハウスを運営



城ヶ島西側の磯を法木幸久さんと歩く。断層や、地層が柔らかいうちに揺すられてできた「火炎構造」などがくっきり

へ。

046-8888-05588
(織井優佳)